



令和3年5月25日

浜松市議会

議長 和久田 哲男 様

江之島ビーチコート整備計画に関する要望書

静岡県ビーチラグビー協会

会長 田代 剛



皆様におかれましては、日頃より地方自治の振興、市民の生活安定と向上のためにご尽力いただいていることに感謝いたします。

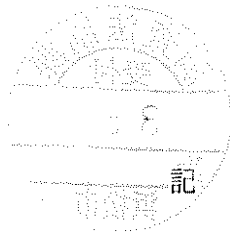
現在、江之島水泳場屋内プール跡地にはビーチバレーコート 2 面の広さのコートが整備され 2019 年 8 月より運営が始まっており、今後は屋外プール跡地に世界大会・全国大会等、大規模大会誘致を目指す施設の整備計画が進められているところです。コート面数は当然のこと、審判・ベンチ・バナーを設置するためのコートの余白も重要であり、そうしたスペースの確保、コートの向き、砂の深さ、粒度バランスといったことの検討も必要となります。

そのような中、プロポーザルでの入札があり、新たな計画案がビーチ・マリンスポーツ推進協議会に出されました。示された完成図はこれまで示されていた案とは大幅に異なっており、多くの競技団体がとまどい、今後ヒアリングをしていくとの話はありましたが不安を覚えました。それは大きく 2 点あり、1 点目はメインスタンドが敷地中央に変更になったことによる東西コートのイコールコンディションの抵触、2 点目は今回突然示された敷地東側の人工芝グラウンド設置と、そのコートへの砂の影響による維持管理と利用率が懸念される点です。

競技者だけでなく幅広い年代、市内外問わず利用をしてもらえるような施設整備を目指していることは理解しますが、まずは基準を満たすことを目標とし、そのうえで例えば課題として挙げられている平日利用は高齢者から障がいのある方、子供までの幅広い年代に日常の体力づくり・健康維持でも利用してもらえるようなイベントやスクールの開催等、ソフト面での充実を計画段階で検討していくことが重要であると考えます。

完成すれば国内最大規模の施設になることが予測でき、それだけの施設でありながら、配置等で基準を満たすことができず、競技によっては大会誘致できないケースがでてしまうことや、利用者やスタッフが使用しにくい施設とならないよう、まずは計画段階の今が重要です。

以上のことから、現計画を進めていくにあたり以下を強く要望いたします。



2020年10月26日
第10回臨時協議会

- 1、現行案について、採用された経緯と判断ポイントについて数字的根拠等も示していただき、分かりやすく説明してください。
- 2、競技者だけでなく各競技団体上部組織のヒアリングも行い設計を進めてください。
- 3、リモートの活用も検討し定期的な協議会の開催、また計画に変更等が考えられる時には、変更前に臨時協議会を開催し情報共有をしてください。



以上

（以下は非常に薄い文字の追加内容です）

（以下は非常に薄い文字の追加内容です）

（以下は非常に薄い文字の追加内容です）

（以下は非常に薄い文字の追加内容です）

（以下は非常に薄い文字の追加内容です）

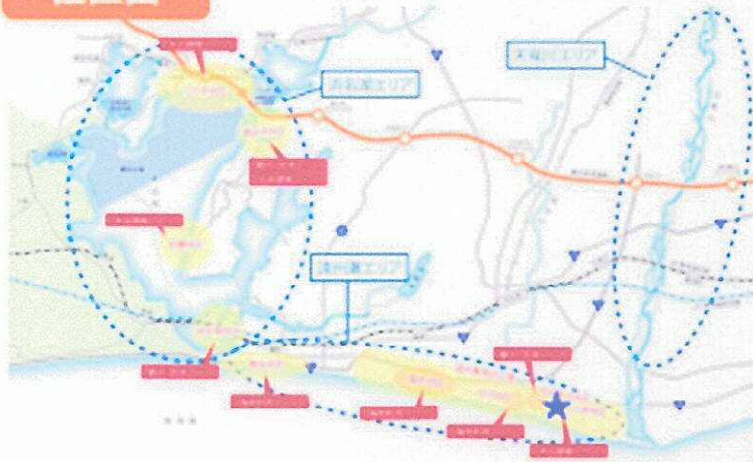
<p>静岡県ビーチラグビー協会 会長 日本ビーチラグビー協会 理事</p>	<p>田代 剛 </p>
<p>静岡県サッカー協会 ビーチサッカー競技委員長</p>	<p>澤田 達哉 </p>
<p>浜松市ビーチバレーボール連盟 理事長</p>	<p>杉山 幸子 </p>
<p>静岡県ビーチバレーボール連盟 審判委員長</p>	<p>池谷 英丈 </p>
<p>日本ビーチテニス連盟 静岡県支部支部長</p>	<p>曾根 佑太郎 </p>
<p>日本ハンドボール協会 ビーチ専門委員会普及委員</p>	<p>今泉 貴雄 </p>

遠州灘海浜公園 江之島地区整備基本計画（案）の概要

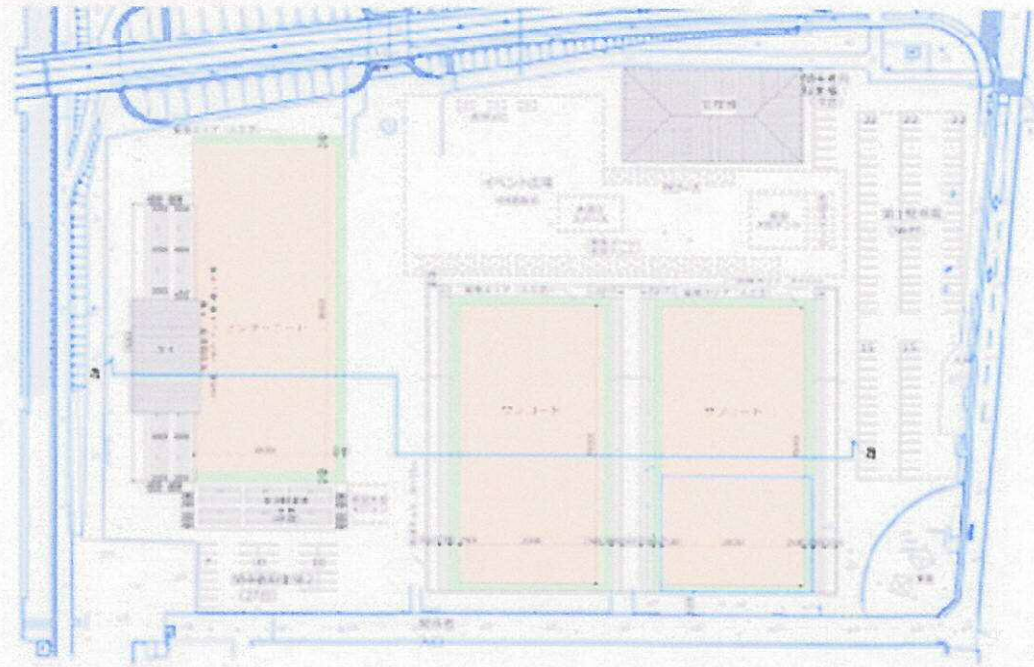
基本的な考え方

各種ビーチスポーツの国際・全国レベルの大会や合宿、強化トレーニングに使用できる施設を整備する。（平成30年12月策定ビーチ・マリンスポーツ事業化計画）

位置図



全体配置図



整備概要

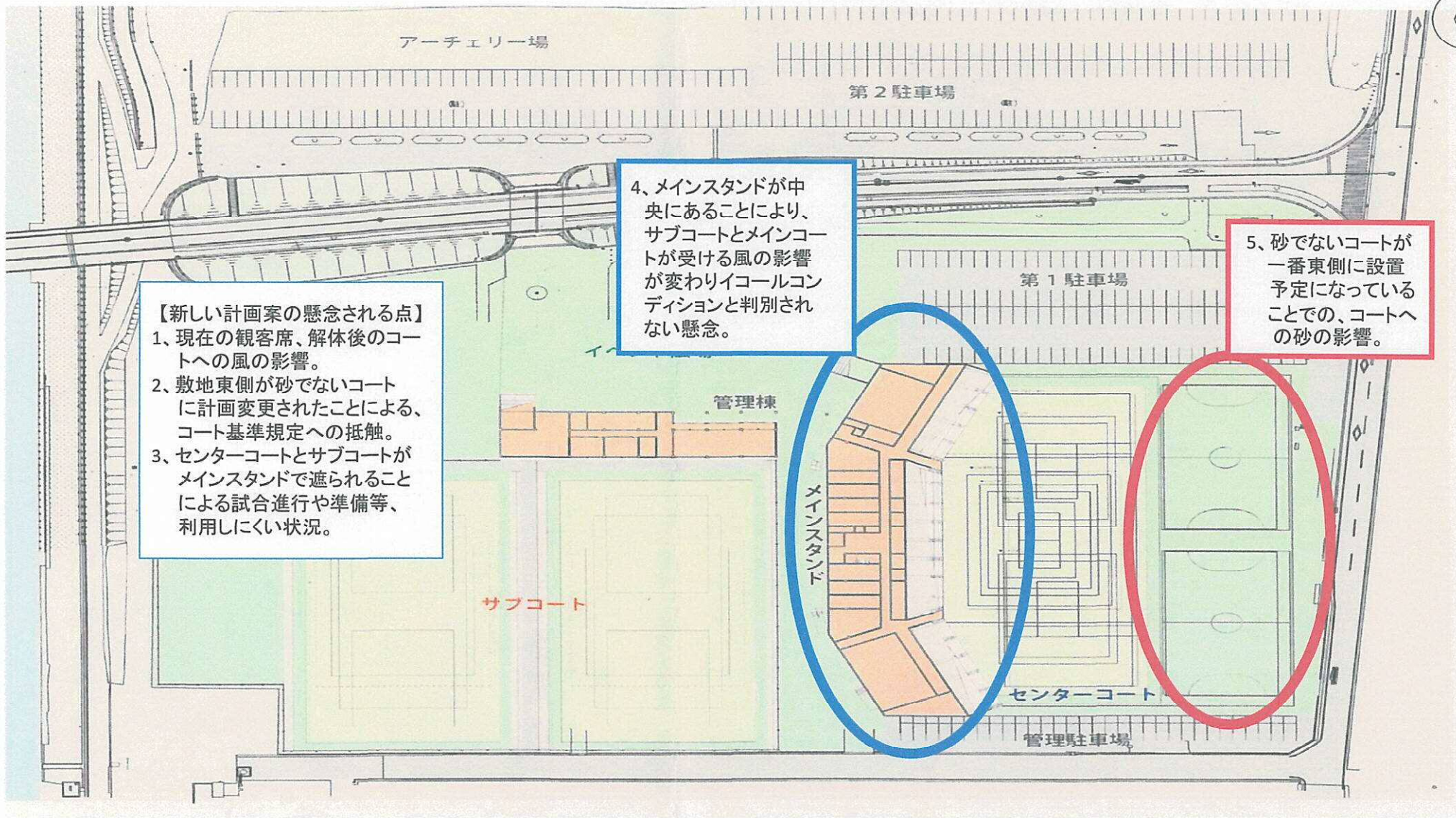
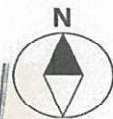
- 敷地面積：37,000㎡
- センターコート：1か所（常設観客席（約1,700席）、更衣室、倉庫を付属、観客席は仮設による増設可能（常設と併せて3,000席程度まで））
- サブコート：2か所
※ビーチバレー12面、ビーチサッカー3面、ビーチラグビー3面
※センターコートはビーチアルティメット対応のサイズ
- 管理棟 延床面積 約1,200㎡（事務室、会議室、倉庫、飲食スペースなど）
- イベント広場 約4,500㎡
- 駐車場（2か所 合計約130台分）

敷地断面図



整備スケジュール

- 基本設計 2021年 2月～2022年 1月 実施設計 2022年 2月～2023年 1月
- 整備工事 2023年 4月～2024年 6月
- 供用開始 **2024年7月予定**



【新しい計画案の懸念される点】

- 1、現在の観客席、解体後のコートへの風の影響。
- 2、敷地東側が砂でないコートに計画変更されたことによる、コート基準規定への抵触。
- 3、センターコートとサブコートがメインスタンドで遮られることによる試合進行や準備等、利用しにくい状況。

4、メインスタンドが中央にあることにより、サブコートとメインコートが受ける風の影響が変わりイコールコンディションと判別されない懸念。

5、砂でないコートが一番東側に設置予定になっていることでの、コートへの砂の影響。

	ビーチバレーボール	ビーチサッカー	ビーチハンド	ビーチラグビー	ビーチテニス
コート面積	28×20m これにバナー、スコアラーズテーブルなどのスペースが必要です。	選手が走るゲームスペースは、縦37m×幅28mレフリーが両サイドを走るため、幅はプラス4m以上の確保が必要。またスポンサー看板や両チームのベンチ設置を考えるとコート面積は上記以上となります。	33×18m に加えてオフィシャル用テーブル席、バナーなどの設置スペースが必要です。	縦56m (トリアリア3m×2)×横25m コートサイドに協賛看板、レフリースペースなどが必要(最低でも縦60m X30mがあるとベター)	11x20m これにバナー、選手用休憩スペース必要。
コート数	10~12面	国内大会では2面同時開催、ウォーミングアップコート1面が最低確保数。国際大会は1面メイン会場、1面ずつ次のチームのW-UPコートなので2面確保。審判団もアップするのでレフリースペースまで確保できるのが理想。	確認中	2~3面(参加チーム数による)	8面以上
コート向き	全てのコートが同じ向き	強風を防ぐ工夫は必要となるためメインコートは四方が囲まれている(スタンド等)のが好ましい。国内大会は2面同時開催で運営するため両コートが運営・観戦しやすく風や日差しを妨げるスタンド設置が必要。選手の入場口から写真撮影まで考慮。	確認中	正式な決まりはないが、同じ向きがベター	全てコートは同じ向き
砂質	きめ細やかな粒な砂。(ルールブック記載)白い砂がNGではないが国際大会では茶色の砂がbetterとされている。また、国際大会はFIVBに砂のサンプルを送り、大会に使用可能か審査されます。競技場建設のための審査は受け付けていない。国内でワールドツアー、オリンピックで実績のある砂業者からの購入が国際大会承知の時砂がNGになる確率を下げることになる。	砂の粒が細かく、石や危険なものが含まれていない安心な砂。裸足で行うため猛暑などの熱さ対策、また冬は寒さで冷たくなるので、両面から配慮された砂が好ましい。	確認中	特に決まりはないが、砂の粒が細かく、石や危険なものが含まれていない安心な砂。裸足で行うため猛暑などの熱さ対策、また冬は寒さで冷たくなるので、両面から配慮された砂が好ましい。	細かいルールの規定は無し。白砂、茶色、サラ砂、砂であれば大丈夫。
砂の深さ	最低限40cmの深さ。実際には50~70cm必要になると思われます。	40cm以上の深さが規程。	最低40cm以上	特になし(最低40CM以上がベター)	ボールが打ち込める深さ。70cmは必要かと思われる。
上空高さ	最小限12.5m以内の空間には一切の障害物のない空間。(天井をつける際に注意)		確認中	上空には一切の障害物のない空間	障害物の無い空間。
明るさ	夜間に行われる場合は競技エリア表面から1mの高さで1000~1500ルクスでなければならない。照明の高さに注意。高さが低いと選手はまぶしい。		コート上1m地点で1,000~1,500ルクス以上		ナイターの試合は海外では多々有。照明はしっかりした明るさが求められる。
観客席	ワールドツアーは1スター~5スターまであり、星一つにつき1000席が必要といわれている。(要JVA等に問い合わせ)	ブラジルでは3万人を収めますが、国際大会は平日と週末開催で集客変動あり。現状ではアリーナスポーツと同じ面積を考えれば1試合3000人以上収容できるものではあると思います。国内大会では1試合1面1500人以上、2面で3000人以上が現状数値でしょう。	確認中	各競技に合わせて	ワールドチャンピオンシップなどではスタンド有。必要席数に規定なし。
その他	完成図の施設センターに観客席を設置すると観客席のに東西で風が大きく変わると思われます。イコールコンディションに抵触しないかヒヤリングが必要と思われま。上記はルールブック記載の条件であり、実際に国際大会を誘致するとプラスαの条件が出てくると思われま。JVAビーチバレーボール事業本部、JBV等にヒヤリングすることが必要と思われま。現在オリンピック大会組織委員会 スポーツ局競技運営部種別マネージャー(ビーチバレー)桐原様がオリンピック会場にかかわっているため、最も詳しいと思われま。桐原さんから協力の申し出も頂いています。	【ナイター設備】国際大会および国内大会も両チームが平等条件で試合が行われる条件とする。 【その他】FIFAの競技規則はあくまでも競技を行うルートブックであり、運営用ではありません。これから作られていく過程の施設に関しては、如何に運営しやすい、開催地に指名されやすいコートづくりが理想かと思われま。 試合を消化する目的の施設なのか?一人でも多くの方に観戦して頂きたいのか? またスタッフ陣が円滑に作業を進められる施設であるか?といったところが裏テーマとしてあるでしょう。	ゴール後方3mの位置に幅12m高さ7mのキャッチネットが必要。(コートの設置状況に合わせてゴール裏ネットの位置を変えて設置できるのが理想です。)映像撮影用カメラの位置なども含めた国際大会開催用の詳細な最低基準を日本ハンドボール協会を通じてIHF(国際ハンドボール連盟)・AHF(アジアハンドボール連盟)に確認を依頼中です。	【ナイター設備】両チームが平等条件で試合が行われる条件とする。 【希望】 ・トレーニングスペース(希望) ・会議室 ・ロッカールーム ・報道(撮影場所) ・アナウンスルーム(音響) ・照明 ・トイレ、シャワールーム	当初の案から今現在の入札した会社の完成図ではだいぶ違いがありますが大丈夫でしょうか?東西の風問題、ビーチの場にフットサルコート提案した業者は浜松市民にいい公園を作ろうとしているのはわかりますが一番の前提であるビーチスポーツの国際大会誘致会場ということが抜けていませんか?今一度各団体を集めて確認したほうがいいと思います。細かい事が必要であればJFBT本部大住を招集します。